

1 事業の概要

1-1 業務の題目

東日本大震災において危機的状況が危惧される方言の実態に関する調査研究事業（茨城県）

1-2 業務の目的

東日本大震災における被災地域としての茨城県各地における方言の記録を行うとともに、被災地域および県外からの避難者集住地域等における方言（言語）をとりまく現状について把握する。

1-3 業務の期間

平成 24(2012)年 8 月 6 日～平成 25(2013)年 3 月 21 日

1-4 当該年度における課題項目とその業務実施状況の概略

(1) 被災地域における言語・方言に関する資料調査及びその分析

本事業を行うための基礎資料として、茨城県方言および茨城県方言を含む関東地域方言に関する文献資料の収集、ならびに文献に関する情報の収集を行い、資料編に収めた「方言文献目録」を作成した。

この文献目録は、今年度は古い資料類から概ね 2000 年ごろまでの方言関係書目と方言関係論文（いずれも俚言集等の方言資料を含む）についてのものである。この種の先行研究との違いは、リストに茨城県内の大学・公共図書館および国立国語研究所における蔵書情報を盛り込んだ点である。これによって、茨城方言に関する文献について、例えば（県内の）一般の方や中高生などが茨城県方言を調べようとする場合、あるいは茨城県で支援活動を行う人が茨城方言を調べようとする際に、大いに役立つであろうと考えられる。また、地域に存在する俚言集の類については、その内容が題目だけではどの程度のものなのかわかりにくい。そこで、作成した文献目録では、どのような分野の俚言が何語収められているのか、といった具体的な内容情報を盛り込んだ。一方、専門性の高い研究書や研究論文については、その内容情報はそれを必要とする人にとって必要性は高くないと推測できるために、内容情報は簡略なものに止めた。このような方針で作成した文献目録によって、方言ということばの面からの被災地支援の一つとなりうると考えている。

また、収集した文献資料は、第二部に報告する方言談話の収集調査、談話の文字化にも活用した。

(2) 被災地域における方言の状況に関する調査およびその分析

被災地域の方言の状況に関する調査およびその分析は、下記（3）（5）と関連付けて行うことによって、多角的に取り組んだ。

被災地域の方言の現状ならびに言語生活の実態を明らかにするために、下の（5）で

述べるとおり、現地調査とそれに基づく記述的研究等を行った。その具体的な内容の概略については、(5)において述べる。被災地域としての茨城県方言を始めとする方言に関わる意識調査として、次の(3)での述べるとおり、方言をめぐる意識調査、インタビュー調査を行った。その具体的な内容の概略については、(3)において述べる。

(3) 被災地域における方言話者や地域住民、自治体職員等に対する意識調査及びその分析
被災地域の方言についての方言話者や地域住民、自治体職員等の意識を明らかにするために、本事業では、特に、被災地域における被災者と支援者との方言(言語)をめぐるコミュニケーションギャップの問題や、茨城県内における福島県からの避難者の方言生活上の問題に注目して多人数調査(自記式調査)を行い、その調査結果を示し、分析した。調査の結果、支援する側とされる側との方言に関わる意識のずれなどが観察された。なお、この意識調査については、本県と同様の事業に取り組んだ宮城県・福島県を中心に、青森県・岩手県とも調整しながら、5県共通の調査方針・調査票(原案)を作成し、それに基づいて茨城県での調査に合わせて修正した調査票を用いて調査した。

また、2011年3月11日の震災時からその直後にわたって中心的立場(の一人)として支援を行った方へのインタビュー調査を行い、その結果を聞き書きの形でまとめた。これらの取り組みについては、第三部に詳細を報告した。

(4) 調査研究結果に関する説明会等の実施

被災地域における方言の危機的状況や被災地域で生じている方言を取り巻く実態などについて、下記のとおり研究報告会を開催した。

- ①「東日本大震災と方言に関する研究報告会 ―文化庁委託事業の進行状況―」, 平成24(2012)年11月3日(土)10:00~11:55, 富山市民プラザ3階・AVスタジオ, 茨城県と青森県・岩手県・宮城県・福島県の5県の共同開催
- ②「文化庁委託事業研究報告会 文化としての方言・絆としての方言 ―東日本大震災、被災地からの発信―」, 平成25(2013)年3月9日(土)13:30~16:40, 仙台会場: 仙台国際センター・白樫2, 茨城県(茨城大学)と青森県(弘前学院大学)・岩手県(岩手大学)・宮城県(東北大学)・福島県(福島大学)の5県(5大学)および国立国語研究所の共同開催
- ③「文化庁委託事業研究報告会 文化としての方言・絆としての方言 ―東日本大震災、被災地からの発信―」, 平成25(2013)年3月19日(火)13:30~16:40, 東京会場: 一橋講堂(学術総合センター)・中会議場1, 茨城県(茨城大学)と青森県(弘前学院大学)・岩手県(岩手大学)・宮城県(東北大学)・福島県(福島大学)の5県(5大学)および国立国語研究所の共同開催

上記のほか、本年度の茨城県の取り組みをまとめた本報告(付、方言談話音声CD)を被災地である茨城県内の大学・公共図書館・高等学校等に送付することにより、成果の周知と活用を図る。

(5) 消滅の危機に瀕していると考えられる方言の音声、映像を含めた資料の収集及び整理・分析

消滅の危機に瀕していると考えられる方言の記録として方言談話収集調査を行い、談話の文字化資料の作成を行うとともに、当該地域の方言の特色に関する調査・分析を行い、方言の特色を記述した。この取り組みは、本事業の中心的かつ最も重要な取り組みである。

現地調査は、茨城県内では震災被害の大きかった県沿岸部を中心とする8市町村(水戸市、北茨城市(3地点)、高萩市、日立市、東茨城郡大洗町、鹿嶋市、神栖市旧神栖地域、

神栖市波崎)において行った。このうち、水戸市、北茨城市(大津)、高萩市、日立市、大洗町、旧神栖、波崎の7地点の調査結果は、「第二部」で報告しているとおりでである。方言談話では、①自由会話と②場面設定会話の2種の談話収集を行っているが、②は青森・岩手・宮城・福島県と連携して同一の場面設定で談話収集した。①については、本報告書では各地点数時間の談話から10~15分程度の震災や津波についての談話や地域の暮らしに関わる談話を抽出して文字化した。②については設定場面の会話(やりとり)とともに、設定場面での会話についての話者からの情報も可能な限り取り上げた。

なお、北茨城市の2地点と鹿嶋市の調査は予備的調査であり、本報告書には報告していない。また、茨城県に隣接する福島県(特に浜通り)からの避難者に対する調査については、茨城県内の避難者支援団体とも連携をとりながら避難者との交流を継続的に行うなどしているが、避難者対象の方言調査は現時点では避難者の置かれた状況を考慮すると早計に行うべきではないと判断し、実施しないこととした。

(6) その他、被災地域において危機的状況が危惧される方言の現状把握や保存継承に資するホームページの開設及びネットワーク構築の準備

本事業の実施に関連しては、青森・岩手・宮城・福島県の同事業関係者、文化財や生涯学習等の県内自治体関係者、被災文化財救済に取り組んでいるグループ、被災者支援活動を行っている団体・個人の協力を得ながら行うことができた。その過程において、情報交換や継続的な協力関係を深めており、人的ネットワークは構築できたものと考えている。今後、被災地域の方言の現状把握や保存継承に資するために茨城方言の情報発信のためのホームページを本報告書完成と前後して開設する予定であるが、ホームページ等も活用しつつネットワークを広げていくことが可能であると考えている。

以上が、当該年度における業務実施状況の概略である。

1-5 業務実施体制

業務実施体制は次のとおりである。

- ・代表責任者：杉本妙子(茨城大学人文学部教授)
担当内容：業務全体の統括、方言に関する現地調査・分析・報告書作成の分担、その他の調査・分析・報告書作成、等
- ・副責任者：佐々木冠(札幌学院大学経営学部教授)
担当内容：方言に関する現地調査の分担、調査分析の責任者、報告書作成の分担
- ・分担者：新井小枝子(群馬県立女子大学文学部准教授)
担当内容：方言に関する現地調査・分析・報告書作成の分担
- ・研究協力者：佐藤高司(共愛学園前橋国際大学教授)
担当内容：方言に関する現地調査の協力

課題項目別の実施体制は下表のとおりである。

課 題 項 目	実 施 場 所	業 務 担 当 者
(1)被災地域における言語・方言に関する資料調査及びその分析	茨城県(茨城大学、他)	責任者：杉本妙子

(2)被災地域における方言の状況に関する調査及びその分析	茨城県内各地（被災市町村、茨城大学、他）	責任者：杉本妙子 分担者：佐々木冠 分担者：新井小枝子
(3)被災地域における方言話者や地域住民、自治体職員等に対する意識調査及びその分析	茨城県内各地（被災市町村、茨城大学、他）	責任者：杉本妙子
(4)調査研究結果に関する説明会等の実施	富山市、仙台市、東京都	責任者：杉本妙子 分担者：佐々木冠 分担者：新井小枝子
(5)消滅の危機に瀕していると考えられる方言の音声、映像を含めた資料の収集及び整理・分析	茨城県内各地（被災市町村、茨城大学、他）	責任者：杉本妙子 分担者：佐々木冠 分担者：新井小枝子 調査協力者：佐藤高志
(6)その他、被災地域において危機的状況が危惧される方言の現状把握や保存継承に資するホームページの開設及びネットワーク構築の準備	茨城県（茨城大学、他）	責任者：杉本妙子

1-6 課題項目別実施期間

- (1) 被災地域における言語・方言に関する資料調査及びその分析
実施期間：平成 24 (2012) 年 8 月～25 (2013) 年 2 月
- (2) 被災地域における方言の状況に関する調査及びその分析
実施期間：平成 24 (2012) 年 8 月～25 (2013) 年 3 月
- (3) 被災地域における方言話者や地域住民、自治体職員等に対する意識調査及びその分析
実施期間：平成 24 (2012) 年 11 月～25 (2013) 年 2 月
- (4) 調査研究結果に関する説明会等の実施
実施期間：平成 24 (2012) 年 11 月、25 (2013) 年 3 月
- (5) 消滅の危機に瀕していると考えられる方言の音声、映像を含めた資料の収集及び整理・分析
実施期間：平成 24 (2012) 年 8 月～25 (2013) 年 3 月
- (6) その他、被災地域において危機的状況が危惧される方言の現状把握や保存継承に資するホームページの開設及びネットワーク構築の準備
実施期間：平成 24 (2012) 年 8 月～25 (2013) 年 3 月